

# 魚 礁 効 果 調 査 （ 協 力 ）

佐多忠夫・伊禮勇雄

本県では、沿岸漁場整備開発事業により毎年人工魚礁が設置されており、この人工魚礁の設置概要図及び山立て等の写真や図を巡回指導の中で、漁業者へ周知せしめている。

なお、今回人工魚礁の蛸集効果を調査するため、次の方法で実施した。

## 1. 調査方法

調査方法は、一本釣漁具で餌はサンマを使用し、アンカーは降ろさず、魚礁位置の潮上の方向から、流し釣により実施した。（図－1 参照）

- (1) 調査日時 昭和59年9月4日～5日
- (2) 調査場所 糸満沖、渡嘉敷沖（図－2 参照）
- (3) 調査船 初漁丸4.96 吨（船主上原正三郎）
- (4) 調査員 伊禮勇雄、佐多忠夫

## 2. 調査結果

糸満沖の魚礁（水深60m～80m）の場合、昼間は潮の流れが悪く釣糸に当りはなかったが、夕方（午後5時～6時）は潮の流れの方向が変り、オキアジ（ヒンガーガーラ）4尾、ホホアカクチビ（オームルー）1尾の計5尾が釣獲された。（表－1）

渡嘉敷沖の魚礁においては、漁獲はなかったものの底延縄漁業者が時々、この魚礁及び周辺漁場を利用しているとの情報があった。

## 3. 所 感

魚礁位置の探索には、一応設置図や山立て等で大体の位置をあてながら、魚探で確認していますが、外海での魚礁の魚探反応は僅かで、プロの漁業者も手間取っているのが現状である。

この事は、魚礁ブロックの投下時に検討されるべきことと思いますが、魚礁の魚探反応は海底から3m（魚礁ブロック1.5m×1.5mの3ブロック重ね）弱の高さであった。（図－3）

今後は、この様な事も含め検討課題とし、魚礁の位置に何らかの標識（浮子）を取り付け、地域漁業者に大いに利用できるよう工夫する必要がある。

なお、漁業者から魚礁利用の資料及び情報の提供をお願いしたい。

表－1 漁獲物一覧表

| 魚 種 名         | 尾 叉 長 (mm) | 体 長 (mm) | 体 重 (g) |
|---------------|------------|----------|---------|
| オ キ ア ジ       | 295.7      | 275.7    | 60.0    |
| 〃             | 296.5      | 274.0    | 65.0    |
| 〃             | 280.0      | 263.4    | 57.0    |
| 〃             | 268.6      | 245.0    | 48.0    |
| ホ ホ ア カ ク チ ビ | 266.0      | 234.9    | 30.0    |

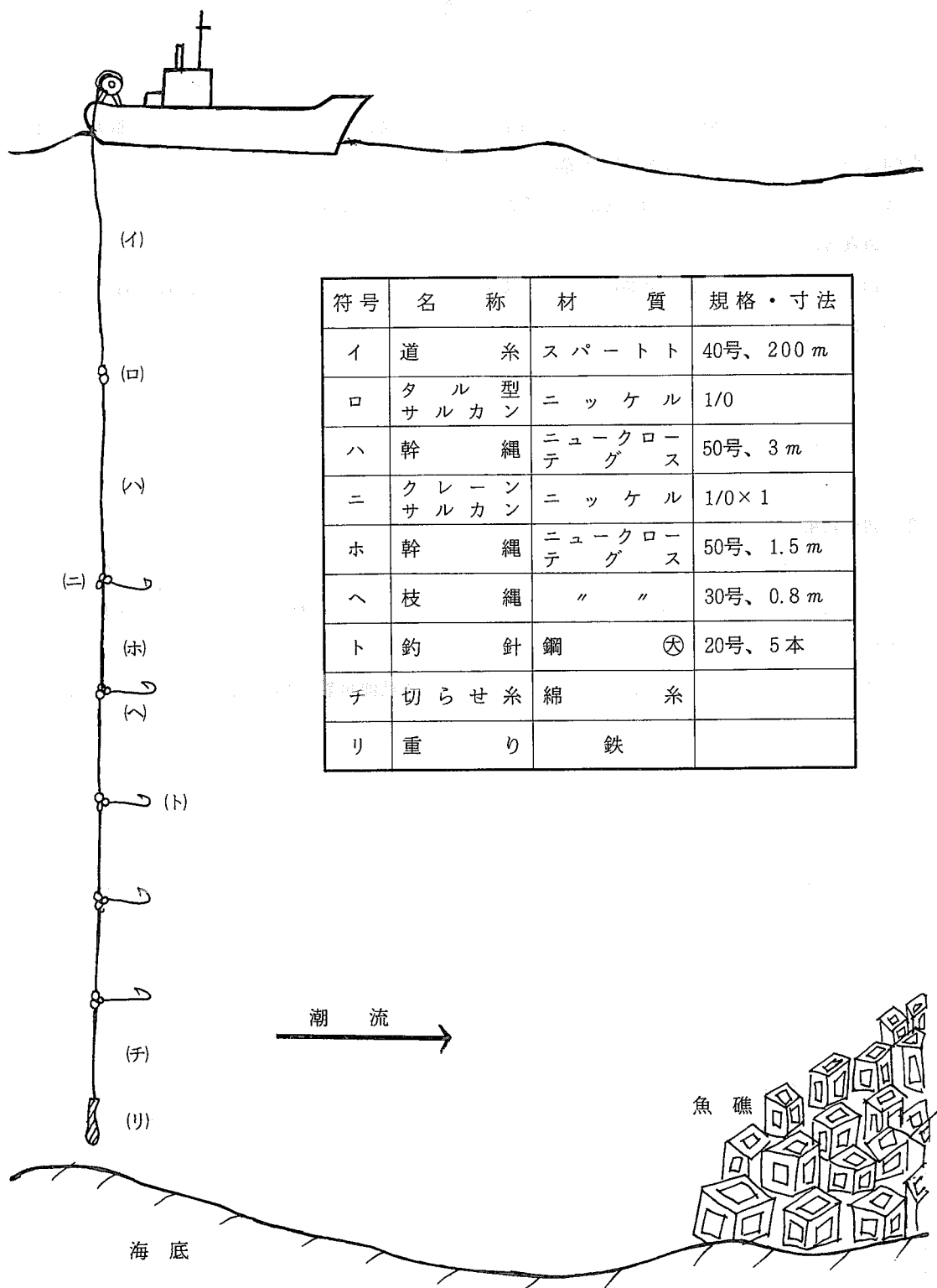


図-1 操業模式図と漁具の仕様

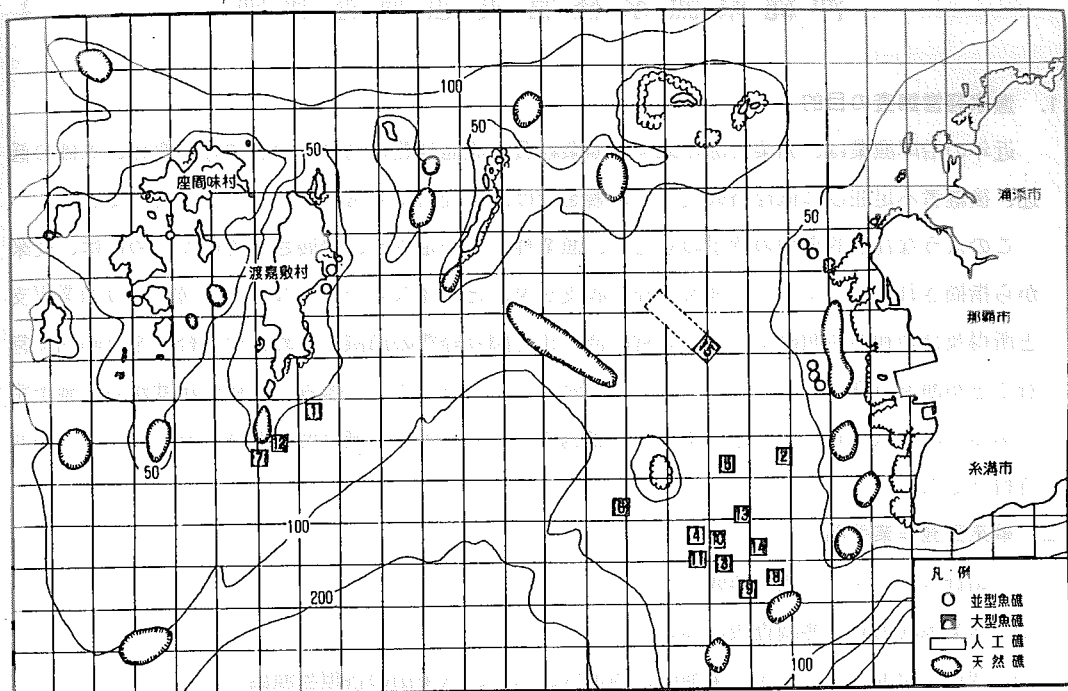


図-2 魚礁設置概要図（昭和48年～58年）及び調査場所（1 3 10）

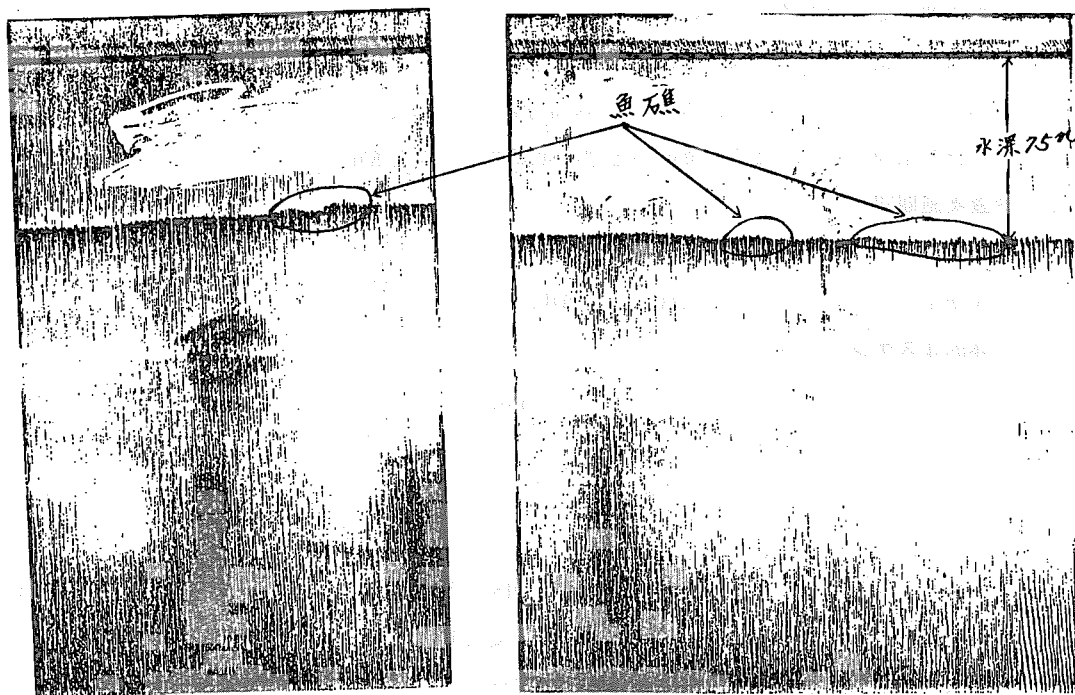


図-3 魚探映像による魚礁（糸満沖）